

令和3年度 第1回四万十町立図書館協議会会議録（要旨）

日 時 令和3年5月26日（水） 午後1時～3時
場 所 四万十町農村環境改善センター 第1会議室

出席委員 竹村君子、刈谷明子、金子仁、武内文治、久保田徳雄
事務局 生涯学習課課長兼図書館館長・林瑞穂、主幹兼図書館副館長・宮本美智、
長木千葉美、谷脇八代美、武内真紀、山地順子、須藤三枝
推進室 大元学政策監、大河原信子室長、西尾洋亮主査、河原一郎主任

－議題－

議題① 令和2年度 事業報告について

【事務局より、令和2年度 図書館館内活動・館外活動の実績報告】

【質疑応答】

（竹村会長）

ご質問をお願いします。

（金子委員）

本館の状況で入館者が減ったということと、コロナ感染症対策で4/21～5/6まで休館とあって、そうするとこの2ページの入館者数推移の開館日が286日ですけど、去年が273日でその前が288日で、コロナがなかった2018年と2020年がほとんど同じ開館日数というのは正しいのかなと思ひまして。去年が273日で少ないですけど、今年は去年と同じぐらいではなく、去年よりは多かった、この数字はあっているのかなと思ひまして。

（図書館）

2019年度もコロナで休館が16日ありまして、それが3/5～3/24なんですね。2020年は4/21～5/2で11日です。年度をまたいだので、そのような開館日数となります。毎年、蔵書点検を行っていて、5日間ぐらい休館日は毎年あって、その辺りでもあまり差が見受けられないと感じられるのではないのでしょうか。

（金子委員）

分かりました。ありがとうございます。

（武内委員）

去年の会でレファレンスの話をしましたが、数字的には窪川38件、大正44件ですが、どういった内容になりますか。

（図書館）

いろいろありますが、郷土関係に関する物とかがございます。

大正分館ですと、歴史とか世界史を好きな方がいらっしやって、年配の方なのでなかなか自分で本を読んでというところまでたどり着かないので、～という民俗と～という民俗が関係あるのか。それを書いている本はあるか。というようなオーソドックスな質問ですね。あと、大正地区以外の例えば中津川とか奥の地区で、こんな花があったけど、これは何という花かというようなありとあらゆる調べものですね。記録はすべて取ってありますので、個人情報になりますので出し方が難しいですが、提出はできる状態ではあります。

(竹村会長)

まさに文化の中心。単なる本の紹介と言いますか、これこれのこういった本はありますかというようなものも入っているのですか。

(図書館)

それも何冊か入っています。

(武内委員)

それこそ去年も話しましたが、郷土資料の収集の関係です。四万十町出身の詩人、有名な方二人おいでますが、以前話したように、本の購入予算もない現状だと思います。なかなかないという事で、自分自身も個人的には寄贈もしたのですが、郷土資料としての出身者の本とか、行政資料の関係もあると思うんですけど、そこで去年以上に進めた話があったら教えていただきたいなと思います。

(林館長)

郷土資料については、出来るだけ集めていきたいというのが方針としてありますが、提供してもらう方法、周知という部分が十分に行き渡ってないのか、寄贈していただく分もあるし、自主的に集める部分もあるんですけど、まだすべてまで行き渡ってないというのが現状だと思います。

行政資料については、図書館の方の行政資料として置くべきか否か、報告書であるとかいろんな町が発刊しているものについて全数入れるかどうかというルール付けも十分に出来ていないので、整理して各課にお知らせをして収集方針を決めていくというのが新しい図書館をつくっていくにあたっては、大切な事ではないかなというところなんです。まずは定義付けから始めて、収集をしていくということにしていきたいなと思います。

(竹村会長)

行政資料については、町議会の方の図書館と言いますか、国会に国会図書館があるようにそういう設備はないのですか。

(林館長)

議会図書館というのが、四万十町にも議会に附属する図書館というところでもあります。

ただ、全ての事について網羅されているかと言ったらそうでもないところもありますので、できれば連携していくのが一番大切な事だと思いますけど、今のところ連携というところまで至っていないというところなんです。図書館は図書館として、図書館の部分についてはしっかりと行政資料も集めていくところは責務として持っているという事は意識しております。

(竹村会長)

議会図書館というのは私が知らないだけなのか、公的な町議会の根拠とかあるんでしょうか。行政資料までとなると大変な事だなという観点から質問しました。

郷土資料につきましては例えば、道徳という地域のかつての庄屋さんのお家の襖の下張り、あれがとても重要な資料で県が新しい県史を編纂し始めましたよね。それに使われていくと聞いております。そういうところと、四万十町の図書館の郷土資料の収集との兼ね合いみたいなもの、大変な作業だとは思いますが大事な部分だと思います。

(林館長)

その資料についても受け入れたのが生涯学習課でした。

丁度、町の事業で住宅を改修している時に襖の下梁が発見されたので、いりますかと連絡をもらったので、捨てるのは待つという事でもらいに行ったというような経緯もあります。

その中で、本当は襖の下張りというのはそのままの形で保存しておく、保存して剥いでいくのが本来の姿ですけど、見に行かせてもらった時にはもう既に、ほとんどベリベリに剥がされていた状態で、1500枚とか2000枚というようなものについては剥がされていた状態でした。一部の部分があの下梁の状態が残っていたというのが現状です。

ただ、状態としては非常に良い状態でこちらの方に渡ってきましたので、それについては図書館内で古文書を読む会というグループがありますので、その方たちのご協力を得て全てPDFで撮って電子化して保存をしています。現物についても保存をしているというところになります。

古文書の類については積極的に図書館の方としても保存していくというのが責務であろうと考えております。

(竹村会長)

話が横にいきましたけれど、図書館の仕事の一部としてこれからの課題になっていくのでしょうかね。

(図書館)

郷土の収集ということで、図書館でのサークル活動が古文書の会と、窪川の歴史を語る会という活動がありまして、そこで貴重な資料を頂ける物はお話して頂くというようにしております。まだ登録は未登録になっておりますが、今後も収集していきます。

(刈谷副会長)

本館と大正分館の課題がいろいろあるという事ですが、本館の方では児童書がいま満足に揃っていないに関わらずという現状があるという事と、大正の方では団体貸出が増えた事で、子どもの本が需要に追いついていないという状態がありますけど、これは今年度の事業計画とか含めて、これらの課題が改善されるような計画はあるのでしょうか。

(林館長)

課題解決という部分では、図書の購入というのが一番だと思いますけど、それについての予算額は、前年度並みにしか確保できていません。

ただ補正予算の査定の中では、新しい文化的施設をつくるにあたって配慮をしていただくという事は、予算査定の時に話もできていますので、直ちにとはならないかもしれませんが、ある一定新しい施設が開館するまでには、児童書も含めた図書の購入費の増額をしていきたいと考えております。

(刈谷副会長)

棚のレイアウトとか場所の面積ということは変えられないと思いますけど、新しい文化的施設ができるまでに2、3年はあるわけで、毎年の課題としてあがってきていると思いますので、新しくなるまでに少しでも増えたらいいなと思っています。

これは一般書籍の新刊書籍についても同じですけど、それだけ需要があるということは新しい文化的施設に対しての期待を含めて、利用者の人たちの期待に答えられるものになればいいなと思っています。

(林館長)

このような意見が図書館協議会から出たという事については、執行部に十分伝えて今後の予算の確保には繋げて行きたいと思っています。

(竹村会長)

ほかにご質問はあるでしょうか、ご質問とご意見は一緒をお願いします。

(図書館)

さっきの質問ですが、大正分館の利用者は一般の方が7割、児童が3割ですけど、本を買う時に去年でしたら1201冊買いまして、一般書631冊、児童書570冊その差が60冊で購入していますので、児童の来館者よりかなり多くの児童書を買うということで、まず新しい本を入れる、本を多めに買うという対応しております。

(竹村会長)

ありがとうございます。

(林館長)

先程の議会図書室についての法的位置付けですが、議会図書室について地方自治法100条第19項に議会は議員の調査研究にすため、図書室を設置し前二項の規定により送付を受けた官報、公報及び刊行物を保管しておかなければならないと規定していて、それに基づいて議会図書室を設置しているということになります。

(竹村会長)

刊行物はそこに必ずいくということですよ。

(林館長)

官報、広報、そのセレクションについては、議会にゆだねられるとは思いますが。

(竹村会長)

ありがとうございます。では次に移ってもよろしいでしょうか。

(図書館)

本館の方も大正分館と同じで、一般の利用者の方が多いんですけど児童書については多く買っていて、6：4、7：3の形では買っております。児童書は調べものなど高価なものも多くて、バランスをみながら買っているという状況です。

(金子委員)

書籍が不足している話の中で、6ページのリクエスト書籍の対応の表ですけど、この相互貸借というのがオーテピアから借りてくるということですよ。大正の方なんかは2019年から数字が上がっているということは、自分のところにはないけれどリクエストに対応するため、たくさん他の図書館から借りている、そういう努力をしているということですよ。

(図書館)

リクエストがとにかく来るんですけど、大正の本棚にはないのである程度新刊本であったり、他の方が借りるなというニーズのあるものは購入にあげて買う。けれど追いつかないので県内で借りる、四国内で借りるというように、とにかく目の前にあるものを貸すという事を重視してやっております。

(金子委員)

ありがとうございます。

(竹村会長)

次、議題2の方に移っていいでしょうか。

今年度の事業計画についてよろしくお願いします。

議題② 令和3年度 事業計画について

【事務局より、令和3年度 図書館館内活動・館外活動の計画報告】

【質疑応答】

(竹村会長)

とても立派な事業一覧表ですが、丁寧に見ないと分かりにくいですね。じっくり見ていただきながら昨年度の活動の反省を踏まえて、ご質問、ご意見ともにかがででしょうか。

(刈谷委員)

表の中で、★マークは何ですか。

(図書館)

★マークは、上から2行目の前年度実施ということで、流れが分かるように載せさせていただいています。

(刈谷委員)

館内活動の怖いおはなし会のところはコロナ対策のため中止というのは、今年度はやらないということですか。

(図書館)

去年度がコロナ対策でできなかったので、難しいのではないかなと思っております。

(刈谷委員)

ピンク色に塗られていますけど、今年度はない予定ということでしょうか。

(図書館)

できる状態であれば行きたいと思っていますけど、すみません検討中の方が良かったですね。

(竹村会長)

難しいところですよ。

(武内委員)

ブックスタート事業の関係ですが、やり始めてから20年程経っていると思います。一番最初のスタートの時、自分も大正の方で始めて、県の生涯学習課が中心となって始めたことにすごく興味をもって、窪川にしても大正にしても、読み聞かせボランティアで広まっていったと思います。そういった意味で、現状どんな形でブックスタート事業をやっているのかお聞きしたいです。

(図書館)

7か月検診時にお伺いして、検診の間にブックスタートコーナーの所で職員が1名から2名行って、本の読み聞かせやブックスタートの大切さについて話して、時間があれば図書館の利用者カードを作るなどお勧めしたりしています。

(武内委員)

図書館への親しみを繋げていく活動はしているということ。

(図書館)

新着リストとか見に来てねとお話しをして、繋がるようなかたちでお話をしています。

(武内委員)

それだけでずっと来てくれる人は少ないと思いますが、二の矢という形ではどんな風にしていますか。

(竹村会長)

セカンドブックスタートというのがそれにあたるのですか。

(図書館)

セカンドブックは、3歳児検診の時に図書館に行ったら絵本がもらえるよというものを配布していた
だいて、来館を促すというかたちで行っています。

(林館長)

セカンドブックスタートは図書館に来てもらって渡す。

(図書館)

そうですね。割とブックスタートでカードを作った方が、来館されるのも見受けられます。

(武内委員)

分かりました。

(竹村会長)

お母さんへの、招待は大事ですね。7か月、3歳の子どもは自分で来ないですもんね。
そうすると、3歳児は来たらですか。それとも招待を送っているのですか。

(図書館)

健康福祉課の方から書類を送って、検診に行かれた時に紙をもらっていると思います。
図書館に3歳児は来て本をもらおうという形にしています。

(図書館)

大正の補足として、窪川の方のブックスタート、セカンドブックのやり方と大正は異なるんです。
大正は2か月に1度ブックスタート、セカンドブックを一緒にして職員がセカンドブックの案内の
チラシ、絵本交換の書類も渡して、ブックスタートではここでお渡ししましたが、図書館の方も利
用していただきたいので、図書館の方に来てお渡ししたいという趣旨を説明して、本館と同様に図書
館の利用者カードを今日すぐに作れますと説明しています。それと、何冊か赤ちゃん用の本とか、お
母さん向けの雑誌など子育て用の本を持って行ったりして、その場ですぐに貸出してもらえるよう
にしています。

(久保田委員)

質問かつお願いですけれど、今年度四万十町の3、4年生の社会科で副読本を編集させていただき
まして作ったんですが、編集作業をしていた時に大変困ったことは旧窪川町、大正町、十和村の写真
とか記事が不完全で、最新でいえば庁舎が新しくなった時に町長がご挨拶したはずなんですけど、セ
レモニーの写真が残ってなかったということで編集としてはかなり苦勞しました。四万十町の歴史
を振り返る時に資料をデジタル化していただけたらと。今聞いたら、窪川の歴史を探る会とかで資料
なんかをPDF化していただいているということなんですけど、10年経ったらまた編集会議が開かれま

す。その時には、今とは違って全てデジタル教材になっているはずです。タブレットで見れるような、将来を見通して図書館の皆さんにご苦労かけますけども、いろんなものをデジタル化していただけたら非常に嬉しいというお願いです。

(林館長)

写真をデジタル化していくという事については、古い写真を過去、昭和に入ってから寄贈で頂いたものはデジタル化していこうと取り組みを始めたところもあります。現在進行形で、どんどん歴史は積み重なっているので、学校の副読本を作る必要もありますし、町としては町史をつくるという作業も今後発生していきます。そういう時に写真は必要となっていくので、行政として考えていく必要はあると思います。

(刈谷委員)

家のパソコンで、図書館の検索が出来るようになって便利になったなと思っているのですが、今は四万十町のホームページの中の生涯学習課のページの中に検索のホームがありますが、今後、四万十町立図書館としてのホームページとか、今より一般の人が見つけやすいようなページを作っていく予定はありますか。

(林館長)

確かに非常にいきにくい、探しにくいというのが今の図書館のページだと思いますけど、今後については、更新も必要ですけどもっと見やすい、探りやすいように改善していく必要があると思います。

(竹村会長)

ネット検索においては、便利になったという声は聞いています。

(金子委員)

授業計画の14ページ、四万十町文化施設関連というところで、図書館の事業ではないが文化的施設整備推進室のイベント等に連携、活動しているということですが、今の四万十町立図書館とこれからの文化施設というのが、町民から見ると文化施設とはいえ図書館と美術館なわけで、図書館協議会で話したことが文化的施設整備推進室の方に情報共有というか、図書館を良くしようねと話したことがちゃんとこれからの文化的施設の方に活かしているのか、図書館の方が整備推進室に対して、今ここでこういう議論があるからこういうところも考えて新しい施設をつくってよ、今こんな事に困っているから改善してね、ときちんと伝えてがっちり連携して、こっちからちゃんと意見を出してほしいなと思います。今までもここで話したことが、文化施設に伝わっていると思っていたらそうではなかった事もあるので、そこはちゃんとそれぞれ連携しているんだと思いますが、がっちりとタッグを組んでやっていって欲しいと思います。

(竹村会長)

そうですね。

(林館長)

今日こちらへ来ていただいたのもその考え方の一つとして、図書館協議会の意見も十分聞いていただいて、文化的施設とはいいいながら、コアの部分については図書館であるということは認識していますので、今まで十分連携がとれていたかと言われればそうでない部分も確かにありますので、今後活かしていけたらと思っております。

(金子委員)

お願いします。

(竹村会長)

よろしければ、次の議題に移りたいと思います。

では、議題3その他、いただきました資料を基にご提案、説明よろしくをお願いします。

議題③ その他

【文化的施設整備推進室より説明】

【質疑応答】

(竹村会長)

金子委員が先ほど話されていた意見や質問、要望がどの様にそちらの計画に活かされているかという確認のお話がありましたけれど、以前いただきました推進室の体制図、この中には協議委員はどこにも関わっていないんですね。図書館としてはこれでは無理だわと思いましたがけれど。

それから、今のご説明の6番あたりで細かいことが出てきましたらご説明しますという話ですけど、出てきてからでは遅いかなといつも思います。司会進行の立場で、意見といいますか感じていることなんですけれど。

この10ページの全体イメージで先ほど、図(4ページの図)にもなっていますが、4つの機能が複合的に集約された文化施設がコアであって、図書館はこういうふうに、美術館、展示、コミュニティ町づくりの複合拠点ですよ、コアですよ。ここには、例えばJRの特別観光列車が来てますよね。窪川で降りられて今は短い時間ですけど、すぐにまた乗って帰られるんですけど、これに1時間ぐらい時間があればこういうところに誘導できるのではないのかなと。人の流れや、新しい流れとしてですね。

その時に、図書館、美術館、他にこういう事を狙っていますよといったら、他に何か足りないものがある。それは四万十町この町がもっている全国的なワードとして、四万十川があるんですよ。これが抜けている。この郷土というものが抜けているとずっと感じていたんですけどもね。郷土であったり、史、地理であったりとか。タモリも来ましたよね。NHKに採用されるということは、全国的なワードなんですよね。その部分が抜けているなという事をずっと感じています。

何回か言ってきましたけれど、私たちはこの中にどこにも関与していませんので意見が入りません。怒っているんじゃないですよ。後からになると入らないんだなど。後で説明しますと言われても、入っていかないな。でも、こういう具体的な設計図もできているということですので、すみません、司会進行の役割ながら感じていることを言わせていただきました。

もう一つ、呼坂トンネルの上の通りに茶屋があって街道だったと。長曾我部のころからあそこが行き来する場所で、坂本龍馬なんかもあそこを通っている。15歳ぐらいの時に竜馬が市内から中村に移動しているんですね。その時に通っているはずだと。竜馬をその時に案内したのが須崎の方なんですね。案内してあそこを通っている、そういったことをこの町の子どもたちにも知っていてほしいし、大人も誇りに思っていてほしい、四万十町というこの町を誇りに思えるように。

牧野富太郎も通っている遠山ですか。植物採取をされている、そういった大事な誇りに思うような学習の分野がほしいなというふうに思います。

(推進室)

四万十川というものは、我々としてもなかなか図書館、展示、美術館、コミュニティの中に四万十川が出にくいところではあるのですが、四万十川、郷土史については非常に大事に考えております。玄関にあたる部分、一階のエントランスコーナーに町民の方が当然いるし、観光客の方とかもいらっしゃるんで、四万十川に関連する資料、書籍、アートであったり、いろんなものを入口に展示して玄関で見させていただいて、子ども達に四万十川という部分に触れていただけるのではないかと、展示という中に四万十川に関連するもの、図書館の機能も複合してもらっていますので、書籍という部分でカバーできないかと検討しているところです。

特にランニングコストの部分で一番大きく関わってくるのは、人員の配置という部分もございます。施設によって、どの程度のサービスを提供するかによって、人員の配置は大きく変わってきますし、新規の雇用をするだけではなくて、今いろいろおっしゃっていただいている歴史的な資料などの部分については、生涯学習課が担当していますが、例えばその職員が文化的施設の方に移るということもあったりしますので、そういったところも含めて検討しているところで、なかなか決まらないと、具体的な一番大きい人件費という部分が申し上げられないところがあって、今ある数字を出してしまうと、理解してくれている方はよろしいですけど、勝手に数字だけが伝え聞きみたいに、一人歩きしていても申し訳ないなというところがありまして、今の段階では伏せさせていただいているところでございます。

(推進室)

補足ですが、最初に体制図の方をご覧いただいたと思いますが、施設費の中に案の段階だったかと思うのですが、あくまでも行政内容の体制図というところで、職員がどこに配置されていて、どこを兼務しているかという、あくまでも職員体制の配置図でございますので、協議会であったりだとか、図書館協議会以外の様々な団体との連携も大事になってきますが、職員体制に限っての体制図だにご理解いただきたいと思っております。

先程言われていました郷土のことなどは、資料3ページの方を見て頂きましたら、上の方に「基本構想」の部分があるかと思います。この基本構想の文化的施設整備の大きな1番のビジョンといたしまして、「まちに文化が流れ、人にひらかれ、人が集まる四万十町駄馬」という所で先程ご紹介したようにイベントでも四万十町駄馬の駄馬を取ってイベントを開催させていただこうと思っておりましたし、下にありますコンプトの所では、先程ありましたように郷土資料や地域資料の保存、こういったものをさらに充実強化していくといったコンセプトで進めておりますので、ご理解いただきたいと思っております。以上です。

(竹村会長)

本日の第3の議題は、説明という事ですね。

フリートークという事で、図書館については補足ありますか。よろしいでしょうか。

議題3の議題についてのご質問やご意見、ご自由にどうでしょうか。

(久保田委員)

各種団体に説明されるのであれば、その関係設置委員会、基本計画を策定される策定委員会、会長とかそういう方々を交えて、町民一体になって取り組んでいる姿を見せてほしいなと思います。

もう一点、先程もデジタル化が必要だと言いましたけれども、今回のコロナの予防接種に行く時に予約で高知市はパンクしましたよね。東京とか大阪では実際接種する時に人員を配置してスムーズに摂取できていたというニュースがあって、いかに人が大事かっていうのをデジタルだろうが出来るので、その両方をぜひお願いしたいと思います。

私も十川の方で校長をしていた時に、図書館がないので大正の方にいつもお願いして、県から本を持って来てもらうなど、ひとつひとつ繋がっているから出来るので、それをデジタルでやったところで実際欲しい物は手には届かないという事がありますので、複合的に進めていくということで、期限も決まっているので大変だとは思いますが、歩みをみんなと一緒にということも出していただけたらと思います。よろしくお願いします。

(推進室)

町が一体になってという取り組みに関しましては、検討委員会を設置いたしました時に、平成29年度に設置したとご説明させていただきました。15名の委員さんの中では、もちろん図書館協議会の会長さんにも出て来ていただいておりますし、関係する団体の代表者の方にも来ていただいております。ご説明させていただいた様に、基本計画ができた段階で一旦、どのような形にすればいいのかという所で、行政の方でつかわせていただいて基本設計に移ったと、ここまで来ているという状況にはなっております。

これまでの経緯でしたら、生涯学習課課長、図書館長の方から補足していただけたらと思いますが、経緯はあるという事でご承知していただきたいと思います。

先程のデジタル化の話については、勿論これからの時代として大事にしていきたいと思っておりますが、それより人と人との繋がりが、それ以上に大事だということは十分理解しておりますので、勿論この施設に集まって来ていただくことで人と人が繋がっていただき、それが人脈や人員育成に繋がったり、それもコンセプトのひとつなので、それを大事にして進めていきたいという風には思っております。

(竹村会長)

図書館で実際働いている皆さんもどうぞ、フリートークなので言いたいことをお話しいただければ。

(推進室)

補足ですが、サービス計画を2年間かけて作っているところで、すでに1年過ぎているのですが、サービス計画は主に図書館・美術館の方で作っていただく事が基本になっています。そういった意味

では今、図書館の方にも関わっていただいで進めておりますし、これからもそういった形で進めていくつもりです。推進室だけで作っているものでは勿論ございません。むしろ図書館がメインになってくるかなと思っております。

(図書館)

昨年度はなかなか参加できなかったですが、それなりに職員も参加して希望を言ったりしたんですね。やはり、今の図書館の環境やスキルでは補えない部分を推進室が立ち上がった事で、いい方向にいているのではないかと思っております。

(林館長)

ずっと関わってきたものとして、伝えきれていないというところは反省すべき点というところは感じています。今まで生涯学習課が所管でやってきておりましたが、やはり兼務、本務として十分な対応が出来ていなかったという所があって、全町的に広めていくという所も含めて整備推進室として動き出したという経緯もあります。ただ、移ったからといって、生涯学習課、図書館から離れていたという事では決してなくて、先程も言ったように、サービス計画については自分達の計画であるというところは十分認識しております。コンサル丸投げというような批判の声もあるかと思いますが、決してそういう事ではなく、自分たちの計画として一個一個積み上げていこうという事で取り組んでいます。ただ、計画を作るという事は、自分達が勉強するという事になりますので、それを昨年から積み上げてきて今年度の成果を出していくという事になると思います。

(武内委員)

林課長が言ったように、いろいろな意味で丁寧に説明もしていることはよく分かります。一番ネックになるのは議会だと思います。お金なりいろんな意味で議会の同意が必要ですので、その時に議会の中でどれぐらい議論していただいているのかは自分達もよく承知していませんが、議会は予算とか条例が出ないとなかなか議論できないところもあります。文化的施設そのものの条例といいますか設置条例じゃなくて、この施設で何をどうするかという議論を議会の中でしたらある意味それをつくった後にラーニングコストも含めて、全体的な理解も深まるのではないかなと思います。

一点は、どのような条例として議会に提案をこれからしていくか。

もう一つは、四万十町はファイリングシステムという事で、公文書の関係の整理は先進的にやっていると思っているんですけど、当時も議論があったんですけど、県が公文書館も設置しました。四万十町も公文書に関しての条例をとという話も議論していたと思いますが、そのままの規定でやりました。そういった意味で、議会で公文書に関する議論をしていないような現状です。今回、大河原さんが情報提供の幅となると話があったわけですけど、文書館、公文書館含めて文化的施設の中でどう位置づけでいくのかを聞きたいというのが二点目です。三点目は物ができた後の運営形態だと思います。学芸員をおいてやるのか、図書館司書も直営の職員として雇用してやっていくのか、現段階での運営形態をお聞きしたい。

(林館長)

一点目の公文書館機能について、公文書については、四万十町はファイリングシステムということで管理しています。ただ保存年限があって、保存年限が過ぎて歴史的な文書になれば、歴史的公文書

という形で保存していく事になっています。歴史的公文書をどういう形で保管して公開していくかというルールについては、まだ不透明な部分ではあります。総務課の方としても、施設として歴史的公文書をどこに置くかということについては課題として捉えておりました。一つの案として具体的な話も何もできておりませんが、今使っている図書館をそういう形で活用できないかというお話は出てきております。

二点目の司書、学芸員をどのように配置していくかというところですが、鶏が先か卵が先かという話になってくるかと思えます。司書、学芸員を採用するからこういう仕事をしていきたいという風にしていくのか、それとも、こういう仕事をしていきたいので、司書、学芸員を配置していくという二通りの考えがあると思えますけれど、非常に悩ましいところで、サービス計画を作るにあたってそれが一番のネックになってくると思えます。現状については分析できるんですけど、今後どういう形で配置していくかは7月ぐらいに詰めていくような作業をして、司書〇名、学芸員を採用するとしたらどういう学芸員を採用するのか、例えば、美術系の学芸員もいるし、歴史系の学芸員もいるというところで、そしたら二人とも採用できるのかという部分については、総務の人事と十分詰めてからのお答えになると思えます。それについては、サービス計画をある程度具体化されるまでには、町として方向性をお示ししていきたい。7月、8月に元検討委員会の皆さんに、こういうサービス計画でしていきたいとお諮りをする段階では、ある一定、町としてということをお示ししたいと考えているところです。

(推進室)

一点目のですね、これからの施設のイメージを含めて、公の施設としてこの施設の設置条例だとか、そういった位置付けのところに関しては、先程ご説明した資料の10ページの方にも書いていますが、私としても大事なものだと感じています。施設の位置付けというものをしっかりしとかなないと、我々も考えにくいですし、勿論それ以上に町民の皆さんは考えにくいかと思えますので、これについては早めに整備させていただいているところです。まだ結論と言いますか、出来上がったところには至ってないですが、おっしゃられたように設置条例なども早めに議論していただくことで、見えてくるものもあるとは思えます。条例というところまではいかなくても、どういった位置付けにしていくのかは、しっかりと整備をしてお示ししていきたいと思っております。

特に生涯学習施設、図書館、美術館だけではないというところで、所管も変わって位置付けも変わってきますので、そういったところが見える形にはしていきたいと思っております。

(武内委員)

大河原さんに、直営と指定管理の話があったら、なんで直営になったのかのも含めてお聞きしたい。

(推進室)

まず、津山市の例からお話させていただきます。津山市で問題になりましたのが、市立図書館がアルネ津山という大規模再開発ビルの中にございまして、管理運営費を含めでお金がかかりすぎているということで、指定管理にして経費の削減が図れないかという事から指定管理の話が出ておりました。アルネ津山というビルが大規模なビルでしたので、光熱水費、ビルの運営そのものに掛かる負担金、その他もろもろ。ビルが商業ビルでしたので、図書館本館の開館日数も345日とか、お正月ぐらいしか休館日がない状態で開館をしていて、商業施設に合わせて開館時間等を設定されていた関係で、

いろんな意味で管理運営費が高くてついていた、そこを見直せないかという事で検討が始まったんですけど、結果的に図書館の職員が図書館を運営しているのだから、職員の方がいいというご意見をたくさんいただいたという事、その当時すでに開館日数、開館時間を実現しておりましたので、指定管理によるサービスの拡大、サービスが良くなるという部分ではこれ以上のことは見込めないのだから、現状維持で十分ではないかと最終的に直営でいくというように決定致しました。

一般論といたしまして、指定管理がいいのか直営がいいのかというところは意見が分かれるところで、ある意味一長一短があります。指定管理の方が、都会的なノウハウを持った別の団体が運営することで、町独自では出来ない事も出来るようになる可能性があるのではないかと、例えば通年開館ができるなどいくつか利点として挙げられるものもあります。

一方で津山市を例に言いますと、地域との連携、地元の人達との関係性をつくっていきながらそのサービスを展開していくのであるとか、郷土資料を蓄積していく、展開させていくという時には外部の団体指定管理ではなく、そこは地元の人たちが地元で情熱をもって、町民の方々と一緒にやっていくという選択をするのか、どういう選択をしていくのかという所で分かれ道があるのかと思います。

いずれにしても一長一短はあって、どちらが百パーセント良いとか、百パーセント悪いとかいう事ではなくて町の選択、どういう文化的施設をつくっていきたいかだと一般論としては思います。

(刈谷委員)

図書館協議会のことで文化的施設とは少しそれるかもしれませんが、四万十町の図書館協議会をこれまでやってきて、毎回参加する度に自分ももっとどういう事ができるのかなと思ってきたんですけど、わりと近隣の図書館の協議会の話聞いても、意見を伝えても動いていかない様な状況があるかなと感じていて、町により良い意見が言えるような協議会になったらいいなと思っています。津山市は市なので規模が違うかと思いますが、県外の協議会の活動とか、どこでどういう活動をしているか、どんな風に動いているか、参考の事例など四万十町の協議会で活かせるような事柄があれば、参考にさせていただきたいんですけど。

(推進室)

ぴったり当てはまるかどうかは判断していただきたいんですけど、2点お話ししたいと思います。

一つ目が、先ほどの指定管理に動こうかという時に、図書館協議会の方々がいろいろ動いていただいて議論もしていただきとても力になっていただきました。図書館が望む形にもっていくのではなくて、しっかり議論をしていただいて、どういう事が問題になるのか、そうであれば市としての選択はどうあるべきなのかという立ち位置をよくご協議いただいたことがあります。例えば、資料費が少ないという事についても、図書館協議会の方から市長に申し入れしていただくという例も過去にはありました。

二つ目ですけど、結局コロナで実現しなかったんですけど、図書館側が何かをするというのではなくて、市民と一緒に図書館で何かをやっていきましょうという事で、図書館協議会が主体となって一緒に考える会というようなワークショップを開催し、そこで出た意見を基にイベントを開催しようと準備をしていましたが、開催直前でコロナが増えたため、今回の四万十駄馬と同様イベントそのものが中止となりとても残念だったんですけど、協議会の皆さんの名前呼びかけをしていただいたという事例がございます。以上です。

(刈谷委員)

ありがとうございます。

(竹村会長)

私は津山という町は大好きな町で、四万十町もみんな知っている全国的な町名なんですよ。ぜひ、四万十町民が四万十町を好きだよと言える、誇りが持てる町にしていかなくてはと思っているんですね。その自然の中の核はやはり四万十川で、そこに住む私たちという事だと思うんですね。その町につくる文化的施設という事ですので、ぜひその辺りを 10 ページ中に誇りが持てる郷土、誇りが持てる四万十町づくり、この文化的施設に入ったらそういう香りがするという、そんな施設になってくれるといいなと思います。よろしくお願いします。

(林館長)

ここの図書館協議会は活発なご意見が出ると、それを受け止めてしっかり前向きに考えていくのが図書館側、行政側の責務だと思います。言った事が伝わって、跳ね返る部分がないといけないと改めて感じさせていただきました。

これから文化的施設整備推進室という事で、今まで生涯学習課がやってきた事からステージが一つ上がって、更に推進していきたいと町としても本気で考えている事業ですので、忌憚のないご意見をいただけたらと思っているところです。

今日はありがとうございました。

閉会